

スカウトに慕われ、保護者に信頼され、 スカウトを成長させられる指導者の養成 4

今般、指導者の訓練体制を再構築致しました指導者養成委員会の村田委員長に指導者養成委員会としての指導者像についての目標を聞いてみました。

指導者のあるべき姿（わらいとしている指導者とは）

- 1、地域社会において良識ある市民であること。（コモンセンス）
- 2、スカウト運動の目的・原理・方法を理解している。（スペシャルセンス）
- 3、指導者として立場、立場における管理統率能力を発揮し、組織を先導していけること。
（マネジメントセンス）
- 4、スカウト運動の趣旨に熱意を持って、任務に当たる心構えを有すること。（パッション）
- 5、心身ともにスカウト活動に支障のない健康状態であること。

具体的には、どんな隊長を育てるのか

- 1、地域社会、団内、他の指導者、保護者と有効な人間関係を構築することができる。
- 2、スカウトの成長に寄与することを自己の活動の第一義としている。
- 3、常に標準隊編成を目指す情熱を有すること。（1，2ヶ班で満足してないこと）
- 4、スカウト全員の前進を目指す情熱を有すること。（スカウト活動の良さはベンチャー）
- 5、野外活動に関する一定のスカウト技能を有すること。（スキルトレーニング）
- 6、当該部門のプログラムを適切に運用できる能力が有ること（BSコースをベースに）
- 7、プログラムの企画・実践能力を有すること。（年間プロ→月間プロなど）

よく先輩方から、昔はもっと良い指導者がいたとか、研修制度もしっかりしており、結果立派な隊活動をしていたと云われますが、最近では、かつての実修所やギルウエルコースなどのように8泊、9泊もの長時間を取って研修に参加することが大変難しい社会情勢になっております。如何に短時間で効果的な研修をするかが大きな課題になっております。

（時間が許せば、長期間やることによる実践効果が出ることは承知しておりますが！！）

指導者訓練体系の変更については、平成14～5年ころだったか、私が中央審議会議長をしていた時に、村田アダルトリソーシス委員長に「**女性も含めて多くの人たちに研修所、実修所へ参加して頂き、指導者の資質の向上に役立つもの**」を作って頂きたいとお願いしたところからスタートしました。はからずも、公益財団法人になってから、指導者養成委員長に就任した村田さんに、前委員会から検討してきたものを修正、改善を加えてまとめて頂きました。その実施展開については、28年度から指導者養成委員長になられた東京の山内委員長の代になって新しい訓練制度が公開実施されました。

今回の訓練体系の改定では、皆さんに参加し易く、尚且つスカウト技能を確り身に着けて、

スカウティング本来のプログラムを多くの方々に勉強して頂くことをねらいと致しました。

具体的には、県連盟コミッショナー会議や、トレーナー研究集会などで全体像の説明を実施して、内容の周知を図って参りました。

訓練体系 改定のポイントは

- 1, 集合訓練の日程を少なくして、ここでしかできないことを中心に集中講義を行う。
- 2, 野営技能を含むスカウト技能は、スキルトリーニング(実技認定)として個人別に日常の集会などでコミッショナーやトレーナーなどに審査・確認を頂き、個人ごと確実に習得できるようにしてスカウトへの野外活動の指導力を高められるようにしました。
- 3, WB研修所では、スカウトコースを必修コースとして、その後部門別研修を受講する。
- 4, 研修所終了後、冒険的、躍動的なプログラムが安全に展開できるように、安全セミナーを受講して頂くことに致しました。
- 5, 上級コースでは期間を短縮して、プログラム企画力及び展開力を中心に訓練し、スカウティング本来のプログラムが提供できるように致します。
- 6, 団運営の重要な役割を果たして頂く団委員長のために、今回、団委員としての上級コース(実修所)を設定して、団委員長としてのマネジメントが具体的にできるように致しました。ぜひ活用して頂きたいと思えます。

訓練体系 改定のねらい

- 1, 充実したスカウトプログラムを提供できる指導者を養成する。
- 2, 一定のスカウト技能(野外活動技能)を身に着けた指導者を養成する。
- 3, 安全かつ冒険的、躍動的なプログラムを推進できる指導者を養成する。
- 4, スカウティングの魅力を社会的に示すことができる指導者を養成すること。
- 5, 全ての隊長が、上級訓練課程の修了を目指し、全国的なスカウト活動の底上げを図る。

任務中の成人への支援活動 (イン・サービス・サポートの実施)

- ・ 今回の訓練体制の改定の大きな変化点は、従来、定型訓練を集合訓練によるものを中心に進めてきたが、これだけで研修することが大変難しいということで、非定型訓練として、多くの先輩指導者のご支援をお願いして新人の隊長さん(各種指導者)方に「任務中の成人への支援」ということでバックアップ指導をして頂くことに致しました。
オーストラリアでは、新人指導者一人一人に、バックアップ担当者をつけて支援や、相談に乗って指導しているそうです。
- ・ 隊指導者は日常活動を通じて個別の訓練ニーズが出てくる。例えば、スカウト技能の習得、スカウトや、保護者とのコミュニケーション、プログラムプロセスの推進に関すること、プログラム企画、信仰奨励、基本原則その他等が考えられ、これらを解決していくために周囲からの支援が必要になります。その解決は、団委員会が中心になりますが、地区コミッショナーや県連盟の支援も必要になってきます。各団の多くの共通課題については、地区や、県連盟としても特別研修会を行うこともできるでしょう。

・会社の仕事で言うならば、OJTとして実際の仕事を通じて行う人材育成であります
(On the job Training の略)

新入社員教育訓練、初級品質講座、班長訓練、TWI, MTP, 新人課長訓練など諸々の定型訓練(集合訓練)がありますが、一度聞いただけでは全てが分かる訳ではありませんので、それぞれの職場などで、先輩や上司が、インフォーマルに職場で指導、助言や支援をしていくことですが、最終的には自己啓発としての自己努力もしてほしいものです。

今まで、団、隊関係指導者に対する想い、或いは、あるべき姿とか、ありたい姿についていろいろ述べてきました。指導者養成関係の皆様方のご尽力により、現状で考えられる訓練システムについては出来上がりました、何年か実施をして状況を見ながら、更によいものにするために検討を加えることになるでしょう。

実際のところ良い隊長をどのように育成するか、

どう取り組んでいくかということになります。訓練システムができれば、どんどん良い指導者が誕生するかと云えばそう簡単にはいかないのが教育訓練です。とはいえ相当部分は新訓練システム終了で必要な知識は習得できれば、スカウトたちを指導することができる知識、技能は出来上がったことになります。

スカウト運動としてのスペシャルセンスが終了した人なら、免許皆伝として車の運転ができますが、スムーズに立派な運転ができるとは言えません。スカウトたちを喜ばす、プログラムの企画、展開などの実行、実践にほかなりません。ここで更に希望を言えば、「仏を作って、魂を入れず」にならないようにすることです。やる気の継続、パッションの向上をいろいろな形で注入していくとともに、インサービスサポートしての先輩方の支援が必要です。

各団では、いろいろお願いをしてやっと研修所や実修所へ行って頂いたのに、更にあれもこれもと云ってもという苦情が出てきます。群馬県連では、実修所やコミ実などの修了者に、理事会において、日本連盟からの修了証を渡し、本人から決意表明をして頂きますが、みんなこの時点ではやる気十分です。このモチベーションを確り維持継続して頂きたいものです。

17th NIPPON SCOUT JAMBOREE

創立100周年を目指し、スカウトたちに新たな意義を感じてもらうために、日本ジャンボリーの名称を変更。開催回数はそのままに「日本スカウトジャンボリー」となりました。また、参加については、近年の様な地区や県連盟の隊だけでなく、自隊での参加を推奨しており、通常の活動との連動が高まりました。今回の会場は、第14回日本ジャンボリーの会場だった「リフレッシュ村鉢ヶ崎」。海や里山に囲まれ、より冒険的なプログラムが実施されます。

大会名称：第17回 日本スカウトジャンボリー (17NSJ)

大会期間：2018年 8月4日(土)～10日(金) 6泊7日+前後泊

会場：石川県珠洲市 リフレッシュ村 鉢ヶ崎

参加規模：13, 250名 (参加方式は、派遣団 or 自隊参加の選択方式)

参加対象：ボーイスカウト、& ベンチャースカウト、大会スタッフなど

参加費：40,000円+群馬県連費用&交通費

サイト：17nsj@scout.or.jp (予備申し込み 29, 10, 末 県連へ予納金 10,000円とともに)